

目次

ごあいさつ	表紙の裏-1
豊田自動織機グループの持続的な価値創造の歩み	2-3
価値創造のプロセス	4-6-7
目次	5
事業活動の概要	8-9
11年間の連結財務サマリー	10-11
連結財務・非財務ハイライト	12-14
トップメッセージ	15-23

特集

❶ 電動車時代のカーエアコン用コンプレッサーを、世界に先駆けて開発・生産	24-27
❷ たゆまぬ進化の原動力、多様な事業を横断する改善活動	28-31

事業の取り組み

産業車両	32-36
自動車	37-42
繊維機械	43

企業の社会的責任

コーポレート・ガバナンス	44-49
お客様との関わり	50-51
取引先様との関わり	52
株主・投資家の皆様との関わり	53
従業員との関わり	54-57
地域社会との関わり	58-59

環境への取り組み

環境活動のビジョン	60
環境経営の推進体制	61
第六次環境取り組みプラン	62-63
低炭素社会の構築	64-65
循環型社会の構築	66-67
環境リスク低減と自然共生社会の構築	68-69
環境マネジメント	70-73
環境負荷フローと環境会計	74
環境パフォーマンスデータの第三者保証	75

財務セクション・企業情報

財務セクション	
国際会計基準(IFRS)移行に伴う主な決算影響	77
連結財政状態計算書	78-79
連結損益計算書	80
連結包括利益計算書	81
連結持分変動計算書	82-83
連結キャッシュ・フロー計算書	84-85
企業情報	
取締役、監査役および執行役員	86-87
主な生産拠点	88
投資家情報	89



編集方針

幅広いステークホルダーの皆様の当社に対する理解を深めていただくことを目的に、2007年度より「アニュアルレポート」と「社会・環境報告書」を統合し、「豊田自動織機レポート」として発行しています。豊田自動織機グループの経営方針に加え、事業、社会、環境の各分野における1年間の取り組みや今後の方向性などを、読者の皆様にわかりやすくお伝えできるよう心がけました。

報告対象期間

2016年度(2016年4月から2017年3月)の活動を中心に記載していますが、一部対象期間外の内容も紹介しています。

報告対象の組織

当社および連結子会社を含めた当社グループを対象としています。

参考にしたガイドライン

- GRI「サステナビリティ・レポートング・ガイドライン第4版(G4)」
- ISO26000
- 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

将来見直しに関する記述についての注意

本レポートには、リスクや不確実性を伴う予測や将来に関する記述が含まれています。これらは「見直し」、「見込み」、「予想」、「予測」、「計画」などの表現を使って記載されています。予測や将来に関する記述とは、当社(連結子会社を含む)の今後の計画、見込み、戦略、将来における当社の業績に関する現在の見直しや予想に基づいています。これらの予測や将来に関する記述は、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の仮定および判断に基づいており、将来の業績を保証するものではありません。また、当社や当社グループは、新たに入手した情報や今後起こりうる事象をもとに、これらの将来に関する記述を公的に更新したり改訂する義務を負いません。従って、これらの予測や将来に関する記述のみに全面的に依拠することは控えてくださいますようお願いいたします。また、実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、本レポートに記載している予測や将来に関する記述と大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実性には、以下のようなものが含まれますが、これらに限定されるものではありません。(1) 特定の販売先への依存度、(2) 商品開発力、(3) 知的財産権、(4) 商品の欠陥、(5) 価格競争、(6) 原材料、部品供給元への依存、(7) 環境規制、(8) 他社との提携の成否、(9) 為替レートの変動、(10) 株価の変動、(11) 災害や停電などによる影響、(12) 国際的な活動に潜在するリスク、(13) 退職給付債務